

これで ワットク!? 為替のあれこれ

第2回

為替取引の時間と為替レートについて

第1回で解説した外国為替市場ですが、いつ取引が行われているか、また取引の基準となる為替レートを、みなさまは知っていますか？ 第2回目は、為替取引の時間と為替レートについてみていきましょう。

#世界中で **24時間** 取引される

外国為替市場は世界中にあるため、24時間取引が行われています。



※時計は日本時間における各取引所の開始時間を表しています。
※上記はイメージであり、すべてを説明したものではありません。

「今日の東京外国為替市場では1米ドルいくらで取引されました」や「ニューヨーク外国為替市場では〜…」と報道されることがありますが、東京やニューヨークといった都市名は、為替取引が中心に行われる都市(国)のことを指しているだけです。為替市場は株式市場のような明確な取引時間はありません。

ちょっとひと息

which one?

「サマータイム」、あなたはどっち???

日本ではあまり馴染みのない「サマータイム(夏時間)」ですが、これは簡単にいうと、夏の時期だけ時計を1時間進めて、太陽が出ている時間を有効に活用しようという制度です。欧米などで導入され、余暇を満喫する時間が増える!というイメージがありますが…どうやらメリット・デメリットがあるようです。あなたはサマータイムに賛成ですか? 反対ですか?

名前の響きは
なんかいいよね



詳しくはP3のコラムをみてみてね▶



— 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項 —

投資信託に係るリスクと費用

●投資信託に係るリスクについて 投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券(リート)などの値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入る有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

●投資信託に係る費用について [ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

●お客さまが直接的に負担する費用 購入時手数料: **上限3.85%(税込)** 換金時手数料: **換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。** 信託財産留保額: **上限0.5%** ●お客さまが信託財産で間接的に負担する費用 運用管理費用(信託報酬): **上限年率2.09%(税込)** ※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。その他費用・手数料: 上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書(交付目論見書)等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用(上限額等を含む)を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、または同時にお渡しますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

ご注意事項

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。●投資信託は、1.預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。2.購入金額について元本保証および利回り保証のいづれもありません。3.投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。



商号等: アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

#24時間 眠らない市場



日本時間でみると、東京市場は9時～17時を中心として為替取引が行われますが、その前後をみても世界のどこかで為替取引が行われています。下記取引時間はその市場で活発に取引が行われている時間帯です。

また、曜日で考えると、日本時間で月曜日の朝（ウェリントン市場が開く時間）から土曜日の朝（ニューヨーク市場が開まる時間）まで取引が行われています。

〔外国為替市場の取引時間帯（日本時間）〕

市場（国）	日本時間																							
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
ウェリントン市場（ニュージーランド）	5時～14時																							
シドニー市場（オーストラリア）							7時～15時																	
東京市場（日本）									9時～17時															
香港市場（中国）											10時～18時													
シンガポール市場（シンガポール）											10時～18時													
フランクフルト市場（ドイツ）																		17時～1時						
ロンドン市場（イギリス）																			18時～2時					
ニューヨーク市場（アメリカ）																							22時～6時	

※上記は標準時間。取引時間は目安です。

為替レートはどう決まるの？

通貨の交換比率である「為替レート（外国為替相場）」は常に変動しています。世界には多くの通貨が存在しますが、これらが24時間変動すると膨大な数の為替レートが必要となり、為替市場が複雑化してしまいます。そこで、為替レートが決まる仕組みとして、「クロスレート」というものが取り入れられています。



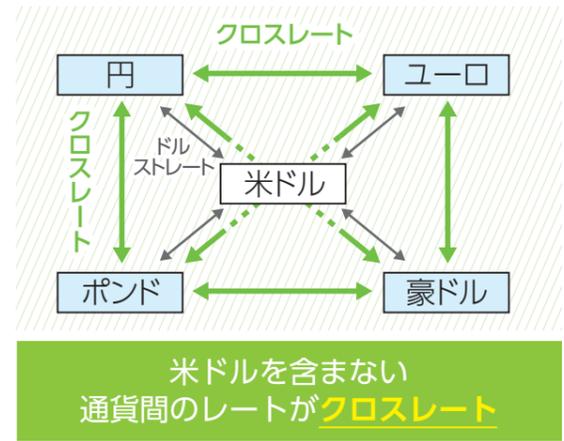
クロスレートとは

「クロスレート」とは、基準となる通貨を1つ決定し、その通貨に対して他の通貨がいくらかということを決する方法をいいます。現在は、為替の世界では米ドルがクロスレートの基準通貨として使用されています。

例えば円とユーロのレートを決める場合、米ドルと円、米ドルとユーロのレートから、円とユーロのレートを決めます。

それぞれの通貨で米ドルとのレートを算出することにより、あらゆる通貨間で、米ドルとの相対的な価値からレートを算出することができます。

〔クロスレートのイメージ〕



米ドルを含まない通貨間のレートがクロスレート

Column

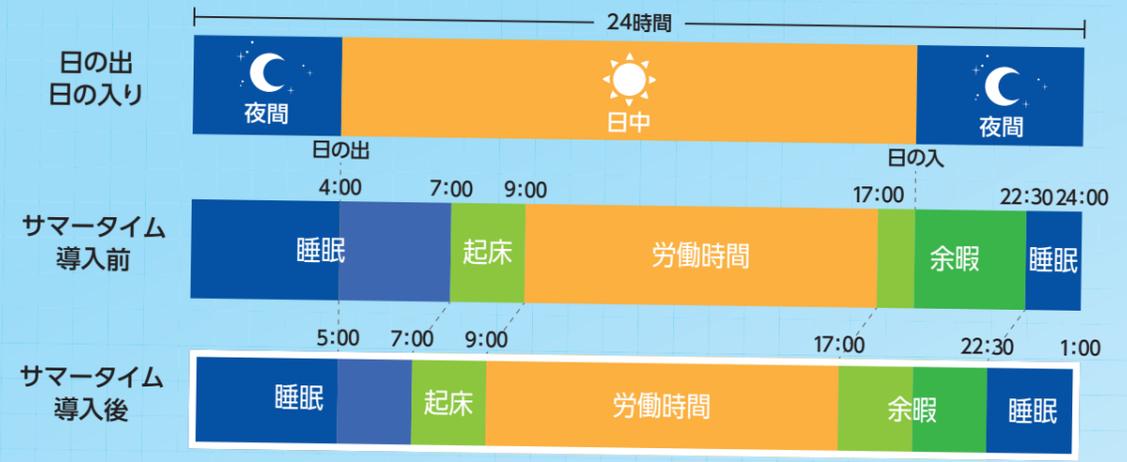
サマータイムってなに？

「サマータイム」という言葉を目や耳にしたことがあるかもしれませんが、このサマータイムについてみなさまはどれだけ詳しく知っていますか？

日本では現在導入されていないため、馴染みがないかもしれませんが。2021年に実施された東京オリンピック・パラリンピックでは、開催前に日本でサマータイムを導入するか否かが議論となっていました。結局日本での導入は見送られたものの、世界ではこのサマータイムが多くの国で導入されています。詳しくみていきましょう。

☀ サマータイムとは…

夏に時計の針を進めることで、まだ明るい夕刻を余暇などにあてる制度をいい、世界で70を超える国で導入実績があります。



サマータイム導入にあたっては、メリット・デメリットがあります。メリットとしては、省エネ・温暖化ガスの抑制につながったり、余暇が増えることで消費が拡大することなどが挙げられます。一方でデメリットとしては、航空や鉄道などのダイヤのほか、各種システムの変更が必要になるといった負荷がかかることや、体内時計の乱れから体調に悪影響がでることなどが挙げられます。

日中の明るい時間に仕事を終わらすことで、余暇などに充てられる時間帯が増える

見直されるサマータイム。欧州では2021年で終了。

2019年、EU（欧州連合）の欧州議会は2021年にサマータイムを廃止する法案を可決しました。理由としては、デメリットで言及したように、生活リズムの変化によるうつ病や心臓発作リスクの増加のほか、各種システムの変更の負荷などが挙げられる一方で、期待されていた省エネ効果が乏しかったことが要因のようです。サマータイムを歴史的にみると、導入したが最終的に廃止とした国・地域が多く存在します。実は日本でもかつて、1948年～1951年にサマータイムが導入されていましたが、労働時間の増加や健康の悪化などから廃止されています。その他の国・地域でもサマータイムに対する懸念の声が上がっており、実は世界的に見直しが進んでいます。